

# ● スノーデント「盛夏」と「王夏」の使い分け ●

雪印種苗(株) 宮崎研究農場

木下 剛 仁

## 1 はじめに

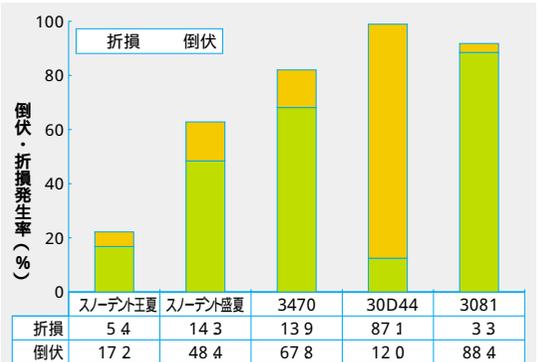
トウモロコシの遅播き・二期作栽培は関東以西を中心に行われている作付け体系です。一般に遅播き栽培と言われているのは、イタリアンライグラスを1回または2回収穫した後の5月中旬～6月下旬迄に作付けする体系です。また、二期作栽培は九州地方で主に行われており、二期作目を7月下旬～8月上旬に栽培する体系です。

当社では遅播き、二期作用品種として平成12年からスノーデント盛夏を販売しており、今春からスノーデント王夏が新発売されます。今回はスノーデント盛夏と王夏の使い分けについて、遅播き・二期作栽培の栽培体系からご説明したいと思います。

## 2 遅播き・二期作栽培での問題点

トウモロコシの遅播き・二期作栽培においては、2つの大きな問題があります。1つは生育期間が台風襲来の時期であり、倒伏の問題が心配されます。特に、遅播きの収穫時期である9月は台風襲来の時期で、耐倒伏性が強い品種の選定が必要です。倒伏でも折損は致命的な被害で、着雌穂高以下で発生すると上部は腐敗し、機械での収穫が不可能となります。スノーデント盛夏、王夏は他社の遅播き・二期作用品種に比べて耐倒伏性が強く(図1)、安心してご利用頂けます。

もう1つは病気の問題でこの時期はさび病、南方さび病の発生時期です。6～7月下旬にかけての栽培で発生しやすく、南方さび病はトウモロコシに罹病すると数日で枯上がる非常に怖い病気です(写真1,2)。また、罹病したトウモロコシは



平成11年9月23日台風18号(最大瞬間風速39.0m/秒)による影響  
**図1 スノーデント盛夏・王夏の耐倒伏性**  
 (当社 宮崎研究農場)



**図2 宮崎研究農場におけるさび病または南方さび病の発生の推移**  
 注)1:さび病または南方さび病はELIOTT \$ JENKINSの調査法に順じ、発生程度は評点(9:極強～1:極弱)の逆数で示した。  
 2:平成9年7月播きは台風による影響でデータ不在

飼料成分にも影響を与え、ADFの値が高くなり消化性の低下、雌穂稔性が不安定になりTDN収量が減収するなどの問題が生じます。ここ最近では、さび病、南方さび病の発生が5月の作付けでも確認されております。図2は当社宮崎研究農場の平成7年から13年までのさび病または南方さび病の発生様子を示したもので、数値が大きいほど、発生程度が甚大であることを示しています。平成9



写真1 南方さび病



写真2 南方さび病

年から5月作付けで発生が目立つようになり、平成11年、12年は7月播きより発生程度が多い年となりました。データは市販品種を検定した結果ですが、5月播きは遅播き・二期作用品種として販

表1 図1の検定品種数

	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
4月播き	12	14	18	21	17	21	16
5月播き	6	9	5	12	8	9	7
6月播き	3	5	-	-	-	-	-
7月播き	-	-	台風	7	8	8	7
8月播き	3	5	8	-	-	-	7

注) 1:4, 5月播きは早播き用としてカタログに記載されている市販品種のデータを使用  
2:7, 8月播きは遅播き, 二期作用としてカタログに記載されている市販品種のデータを使用

表2 スノーデント王夏の多収性

販売元	品種組合せ		稈長		総体乾物収量					
	1期作目	2期作目	1期作目	2期作目	1期作目	比	2期作目	比		
雪印種苗	スノーデント115 アラムス	スノーデント王夏	267	236	1,989	100	1,622	100	3,611	100
パイオニア	セシリア	3081	259	213	1,998	100	1,562	96	3,560	99
日本総業	NS68A	NS88A	262	209	1,784	90	1,515	93	3,299	91

単位: 稈長 (cm) 収量 (kg / 10a) 比 (%)

(平成13年 熊本県農研センター畜産研究所試験成績)

対照商品は当社各品種

1期作目: 4月11日播種 7月30日収穫 2期作目: 8月3日播種 11月16日収穫

売されている品種は含まれておりません(表1)。一般的に、遅播き・二期作用品種は早播き用品種に比べてさび病・南方さび病抵抗性が強い傾向ですが、ここ数年の傾向をみるとイタリアン収穫後の5月作付けにも抵抗性品種の選択が必要だと思われる。

### 3 スノーデント王夏の品種特性

スノーデント王夏は今夏から販売開始の新品種です。品種特性は、収量性、耐倒伏性、耐病性の3拍子が揃っております。表2は二期作体系の試験成績です。スノーデント王夏は8月播きでも他社品種より長稈で乾物収量が高く、この品種の最大の特徴です。一期作目にスノーデント115アラムスと組み合わせると、年間多収が狙えます。耐倒伏性は根張りや稈が強く、前述で説明したとおり極強レベルです(図1参照)。耐病性もスノーデント盛夏と同レベルの南方さび病抵抗性で、30D44やゴールドデントKD772スーパーより強く、病気の心配もありません(表4参照)。スノーデント王夏の詳しい品種特性と作付け方法については、牧草と園芸の平成13年2月で紹介しておりますので、そちらもご参照下さい。

### 4 スノーデント盛夏と王夏の使い分け

5月中旬～8月上旬にかけての遅播き・二期作栽培では耐倒伏性とさびまたは南方さび病抵抗性品種の選択が必要と書いてきました。スノーデント盛夏、王夏ともに遅播き、二期作栽培に必要な特性を備えておりますが、播種期による収量性の違いからその使い分けを説明致します。

表3, 4は両品種の5月播きと7月播きの試験成績を示しております。両品種の南方さび病抵抗性はほぼ同じで他社品種より優れておりますが、収量性で5月、7月播きに違いが見られます。総

